

1. はじめに（戦略ビジョン策定の基本方針）

1. はじめに（戦略ビジョン策定の基本方針）

1) 背景と目的

- ・大宮は古来より氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄えてきた。明治期には東北本線と高崎線との分岐点に大宮駅が設けられ、その隣接地に旧国鉄大宮工場が立地するなど、わが国の基幹交通の要衝として、また「鉄道のまち」として発展してきた。
- ・現在も大宮駅は東北・上信越方面に向かう新幹線5路線が乗り入れる首都圏の玄関口であり、その周辺には商業を始めとする様々な地域資源が育まれている。
- ・加えて、平成13年の大宮市・浦和市・与野市合併（平成17年に岩槻市を編入）によるさいたま市の誕生と平成15年の政令指定都市への移行を契機に、広域的な交通利便性を持ち、都市機能が高度に集積している大宮駅周辺地域は、さいたま市を代表する業務・商業集積地、市の顔として、市内はもとより首都圏、ひいてはわが国全体を視野に入れた、今後のさいたま市の広域的な発展の核となることが期待されている。
- ・しかしその一方で、当地域は交通渋滞や都市機能更新の停滞などの問題点も抱えており、地域の持つ潜在力（ポテンシャル）は、未だ完全に発揮されているとは言い難い。
- ・「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」はこのような問題点を是正するとともに、時代の潮流に対応しながら、大宮の地域資源を活かし、育て、この地域を政令指定都市さいたま市の顔にふさわしい地区として再構築することを目的として策定した。

2) 位置づけ

○「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」は、市の総合振興計画や都市計画マスタープラン等の上位計画のもと、その整合に配慮しつつ、大宮東口都市再生プランや大宮駅周辺地区交通計画等の地域の既往計画を整理し、時代の変化に応じた見直しを行いながら構築した「新たなまちづくり計画」である。

- ・多くの人々が多様な立場で参画するまちづくりを円滑に進めるためには、安全な航海に海図が不可欠であるように、関係者間でまちづくりの将来像や戦略を共有することが極めて重要である。
- ・戦略ビジョンは、大宮駅周辺地域のまちづくりを推進していく上で、次の4つの役割をもつ。
 - ① 大宮駅周辺地域のまちづくりを進める際に、当事者である民間事業者や行政が合意形成を図る上での指針として活用する。
 - ② 具体の計画策定や事業化等を進める際に、民間事業者や行政が検討内容を確認する拠りどころや動機づけとなり、各々の主体の意気込みや自信につながる。
 - ③ 様々な主体が、自らやってみたいことや仲間と一緒にチャレンジしたいことなどを、地域のまちづくりへと展開させていくきっかけとなる。
 - ④ 地域の合意形成の進展や具体の取り組み内容によっては、上位計画や既往計画を見直す場合も想定されるが、その際に柔軟な見直しや再構築などを検討する素材となる。

3) 計画期間

- 将来像や戦略は、次世代を見据えた視点から検討を行う。
- まちづくりに先導的かつ波及的な効果を持つプロジェクト（優先的に取り組むべきプロジェクト）は、概ね10～20年程度で取り組める内容とする。

4) 検討対象範囲

○大宮駅を中心とした概ね半径 500m、面積約 190ha の地域を対象範囲とし、周辺に存在する地域資源（氷川神社、盆栽村、見沼田圃、鉄道博物館、さいたま新都心等）にも着目して検討を行った。

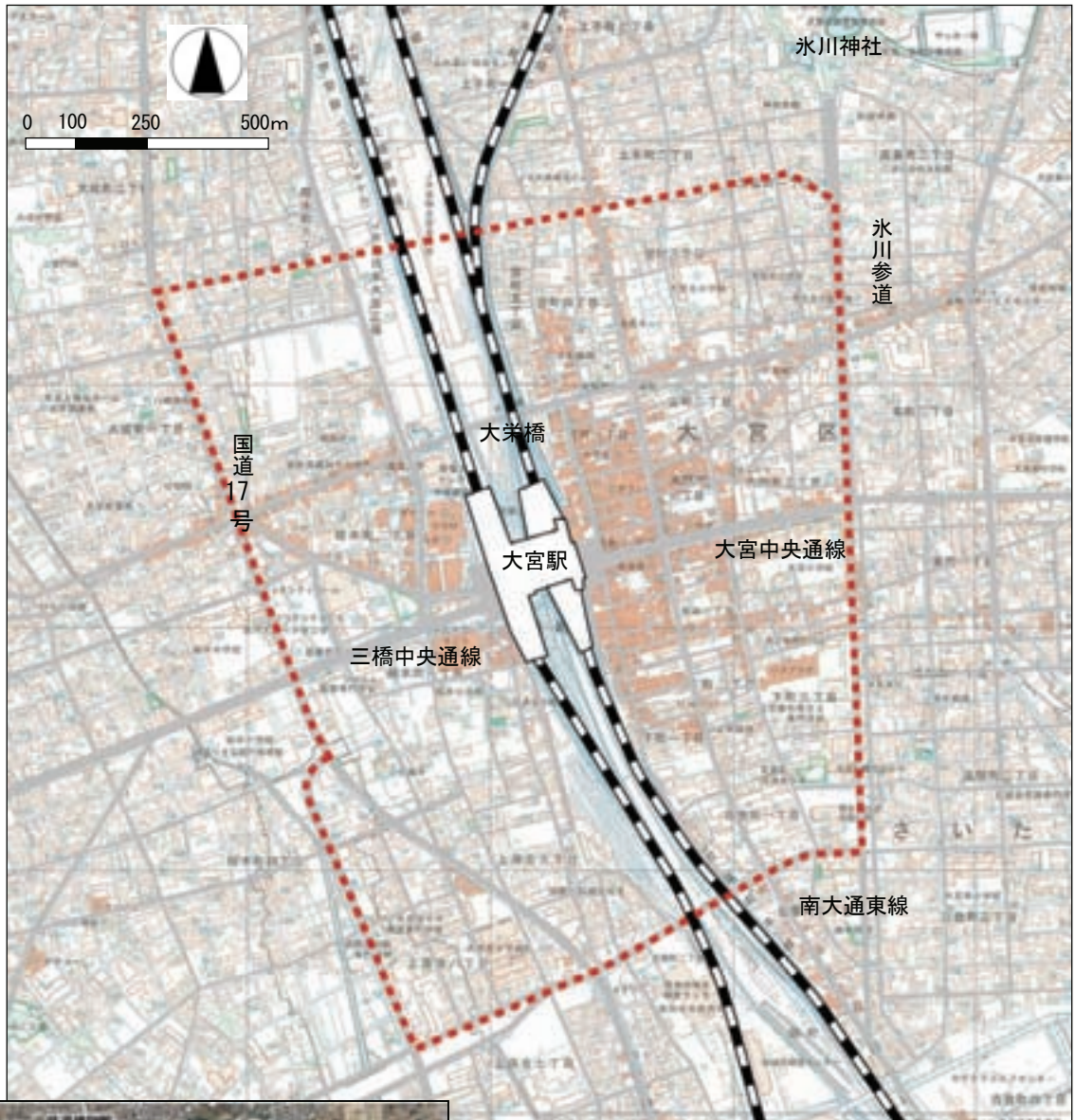


図 検討対象範囲



図 大宮駅周辺地域の位置

5) 検討体制

- 「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の検討は、下図のような三位一体の体制で行った。
- 【委員会・分科会】
 - ・委員会においては、大所高所から戦略ビジョンの策定のための総合的な検討を行った。
 - ・委員会の下に設置した分科会においては、分野別の詳細な検討を行った。
- 【地元との連絡協議・意見交換会等】
 - ・情報交換や資料説明、意見聴取等を行い、戦略ビジョンの策定のために、委員会や分科会に意見を反映した。
- 【行政の検討会議】
 - ・戦略ビジョンの具体化に向けた検討を行い、国や県等の施策もふまえて、施策や事業としての実現を図った。

・三位一体の検討体制は、戦略ビジョンの推進段階において、民間が事業主体として活躍し、行政は全体調整や基盤整備等を行いながらそれを支援する、民間活力を活かした機動的で実効性のあるまちづくりの実現を目途として構築したものである。

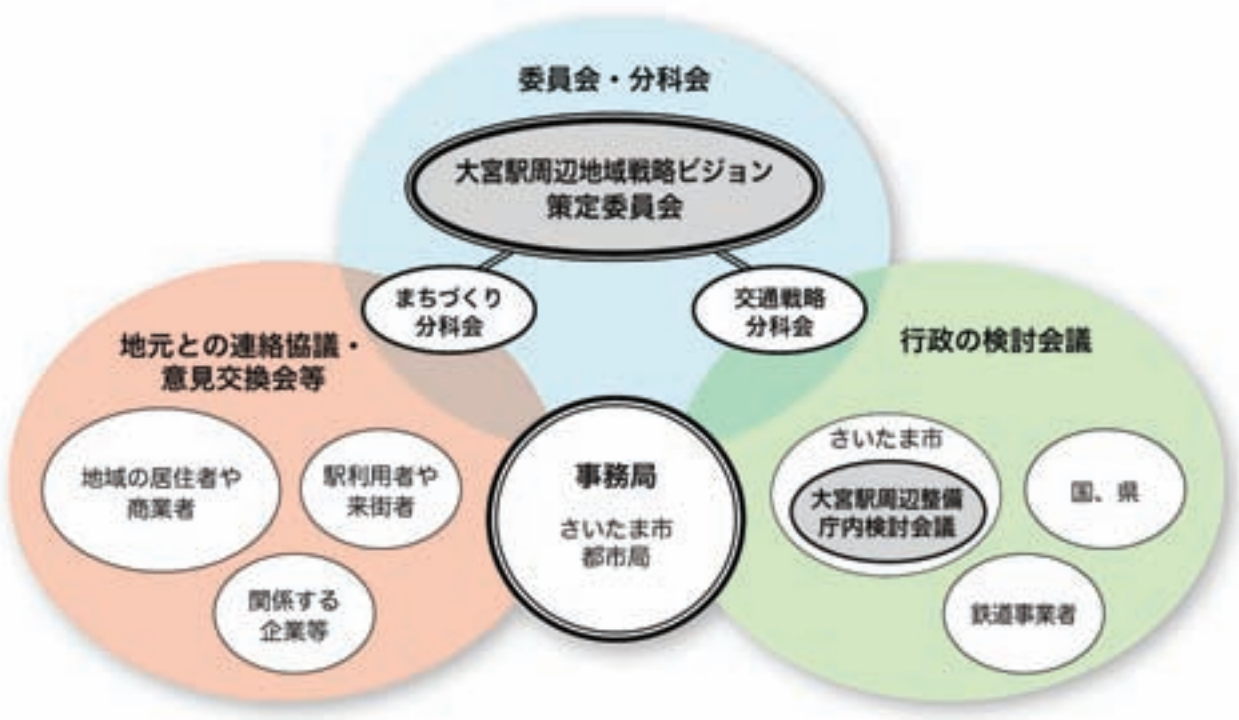


図 大宮駅周辺地域戦略ビジョンの検討体制

6) 構成

- ・戦略ビジョンは全5章からなる。
- ・第6章では、戦略ビジョン策定までの検討経緯として、策定委員会、分科会、意見交換会の開催状況等を整理した。

